

学園だより

和歌山工業高等専門学校

第115号

令和7年9月



入学式



校内体育大会



二輪車安全運転講習会



留学報告会

目 次

皆さん「研究力」を身に付けよう！	校 長 井 上 示 恩	3
「聴く」ということ	教 務 主 事 林 和 幸	4
主体的に動ける人になろう ～主体性と自主性の違いを考える～	学 生 主 事 奥 野 祥 治	5
集団生活で重要なこと	寮 務 主 事 桑 原 伸 弘	6

学生会長あいさつ

開かれた自由な活動を目指して	電気情報工学科 3 年 鳥 飼 昌 也	7
----------------------	---------------------	---

新入生－本科

和歌山高専に入学して	知能機械工学科 1 年 針 生 直 弥	8
和歌山高専に入学して	電気情報工学科 1 年 辻 本 航	8
和歌山高専に入学して	生物応用化学科 1 年 柳 室 姫 那	9
和歌山高専に入学して	環境都市工学科 1 年 古 川 陽 登	9

新入生－専攻科

プラス 2 年の高専生活	メカトロニクス工学専攻 1 年 北 口 康 介	10
高専 6 年目にして驚いたこと	エコシステム工学専攻 1 年 寺 井 梨 華	11

新外国人留学生

自己紹介	知能機械工学科 3 年 ホ ン	12
自己紹介	生物応用化学科 3 年 フォー	13
自己紹介	環境都市工学科 3 年 ト ニ	14

柑紀寮より		15
-------------	--	----

お知らせ

令和 7 年度 学科主任		16
令和 7 年度 クラス担任		16
令和 7 年度 学生相談室（ハラスメント相談員）.....		17
令和 7 年度行事計画		18

皆さん「研究力」を身に付けよう！



校 長
井 上 示 恩

学生の皆さん、校長の井上です。

皆さんは、将来の希望に向かって、勉学、スポーツや課外活動、先生や友人たちとの議論や語らい、そして先進的な研究活動など、充実した学園生活を満喫していることと思います。

今回は、皆さんに「研究」の必要性・重要性や本校学生たちの研究事例についてお伝えします。

本校の先生方は、「研究活動の推進は、学生の教育と同様な重みをもつ基本的使命の一つである」との共通認識の下、毎日研究力の向上に磨きをかけています。地元をはじめ日本全国の企業・研究所等と共同研究を行い高い成果を挙げています。この積み重ねが本校の信頼を高め、皆さんの信用を強め、就職率、進学率の高さに繋がっています。高度な研究力を備える先生から指導を受けることは大きな刺激になり、魅力的に映ることでしょう。先輩方の多くは、先生の指導の下、関係する学会や専攻科研究フォーラム等で研究発表を行っています。ここで、研究事例を紹介します。

○ 昨年、ハワイのホノルルで日米韓の電気化学会（蓄電池や太陽電池や水素エネルギーなどを対象とする化学分野の学会）の合同による大会が開催されました。この大会に、NEDO（国立研究開発法人新エネルギー産業技術総合開発機構）の支援を受けて本校と奈良高専で実施している共同研究（イオン液体という蓄電池や蓄熱に使用する材料に関する研究）について、両校の学生から成果発表を行いました。今年はドイツのマインツで開催の国際電気化学会において専攻科生による研究成果のポスター発表を実施します。

○ 本校と函館、一関、鳥羽、阿南高専と共同で実施している「高専間連携プロジェクト Gear5.0 農水」のテーマとして、海洋環境保全に有用なアマモ場の保全研究を行っています。この共同研究による成果は、本校学生が筆頭著者となる学術論文「Microbial

Detoxification of Sediments Underpins Persistence of *Zostera marina* Meadows」で報告し、共同著者として「DASH 海岸」でお馴染みの木村尚先生（NPO 法人海辺づくり研究会理事）にご参画を得ています。この研究は、専門的な知識でデータを算出し、海洋で生じている総合的な事象の理解に役立てています。

○ カーボンニュートラル実現に必須で、「わかやま成長産業開拓ビジョン」の一翼を担う洋上風力確保には雷対策が重要です。従来の海外製風車ブレードは雷に弱く、度々事故を起こしています。歴代卒研究生が船上や水槽で行った放電実験を通して得た研究成果が、昨年、日本の強力な雷事情を反映させた IEC 61400-24（国際電気標準会議：風力発電の雷保護、JIS C 1400-24 の原本）規格の改正につながりました。

○ 金属を始めとする固体材料の組成観察や性能評価を精緻に行うためには研磨作業が必要で、その研磨精度の飛躍的な向上に、本校学生が力を尽くしました。具体的には、県内最先端の試料研磨機メーカーと連携し、同社が保有する莫大な機械学習データを活用して、勘と経験に頼っていた業務を対話型 AI レシピ自動生成アプリの開発を行うことにより作業の大幅な合理化を実現しました。企業ニーズと皆さんの研究心が合致した事例です。

○ 観光地等で避難場所が分からない等の不安を解消したいと考え、教員と共に災害後の事後対策型コンテンツを開発、実験を行い、論文としてまとめた結果、土木系の企業でつくる専門機関において、高専生初の懸賞論文（学生論文）の優秀賞を受賞しました。

これらの事例は、現場の即戦力を育成する高等教育機関として、実験室等で得られたデータを現場で生じる事象の解釈につなげて総合知に触れるという高専ならではの教育研究で、今後も様々な企業等と連携して展開していきます。当然のことながら本校では、上記以外にも多くの先駆的な素晴らしい研究が行われています。

さて皆さんは、4年生の後期ごろに所属する学科内の研究室へ配属されますが、希望する研究ができるように、日頃から研鑽に努めてください。

現在、生成 AI などの科学技術が著しく進歩し、社会が大きな変化を迎えている状況の下、確かな研究力、実力を発揮することが大切です。このため本校では、皆さんが様々な研究活動に関わる機会を創出していきますので、挑戦してください。

「聴く」ということ



教務主事

林 和 幸

何かを尋ねると、いつもの確な答えを返してくれる人がいます。そうした人に対しては、「この人は、こちらの話をきちんと聴いて、考えてくれているんだ」と感じ、安心感や信頼が生まれます。だからこそ、またその人と話したくなり、自然とその人の話にも耳を傾けたいくなるのです。

人の話を「聴く」ことができる人の周りには、そうしてコミュニケーションをとろうとする人が自然と集まってきます。その結果、その人には多くの情報が集まり、考える機会が増え、経験も豊かになります。そしてその繰り返しによって、誰かから何かを尋ねられたときに的確な答えを返せるようになり、さらに多くの人がその人に関わるようになります。

「聴く」という行為は、自分を成長させる良い循環を生み出すための、非常に有効な手段です。人の話を聴けるようになると、人生はより楽しく、豊かになります。学生の皆さんには、ぜひ「人の話を聴く」という習慣を身につけてほしいと思います。

この学校では、「エンジニア」という言葉を耳にする機会が時々あります。エンジニアとは、人や社会が抱える問題や課題を、技術という手段を使って解決する人のことです。だからこそ、何が問題で、何が課題なのかを、人や社会からきちんと「聴く」ことが不可欠です。

どのような仕事も、自己満足や「自分がやりたいこと」だけでは成り立ちません。大人が受け取る給料や報酬は、人や組織、社会が抱える問題や課題を解決することに対して支払われるものです。その問題や課題を正しく捉えるためには、人と話したり、データを集めたりして、それらが自分に何を語りかけているのかを「聴く」ことが何よりも大切です。

教室、寮、部活動、チームで取り組むコンテストなど、この学校には人の話を聴く機会があふれています。皆さんの生活や人生を楽しく、豊かにするために、ぜひこの学校で「聴く」という習慣を身につけてください。

最後に、「授業を聴く」という言葉について触れておきます。授業は、「見る」でも「観る」でもなく、「聞く」でもありません。授業に対して使われる漢字は「聴く」です。ぜひしっかり聴いて、試験などでは的確な答えを返してください。



主体的に動ける人になろう ～主体性と自主性の違いを考える～



学生主事
奥野 祥治

皆さん、こんにちは、学生主事の奥野です。本年度で3年目の学生主事となりますが、初心を忘れず、皆さんの高専生活が充実したものになるように尽力していきますので、よろしくお願いします。ただ、本当に学生生活を充実したものにするのは、学生の皆さんがどのように日々を過ごすかが最も重要になります。そこで、今回は、「主体的に動く」ということについて話したいと思います。

中学校までよく「自主的に動きましょう」という言葉を耳にしたと思います。では、「主体性」と「自主性」の違いは何かわかるでしょうか。皆さんの中には、「主体性」と「自主性」は同じような意味だと思っている人も多いのではないのでしょうか。確かに、どちらも「自分で動く」「他人に頼らず判断する」といった意味合いがあり、似ている言葉です。しかし、この二つの言葉には、実は大きな違いがあります。

自主性とは、「他人から言われなくても、自分から行動すること」です。つまり、「自ら進んでやる」という点ではポジティブな意味合いを持っています。しかし、自主性には、「与えられた枠の中で自分なりにやる」という前提があることが多いです。たとえば、先生が出した課題を期限より早く提出したり、掃除当番をきちんとこなしたりすることは「自主性がある」と評価されます。つまり、自主性は「決められたことに対して前向きに取り組む力」と言えます。

一方、主体性とは「自分の意思で物事の目的を考え、行動を起こす力」です。そこには、「そもそも何のためにそれをするのか」「自分はどうしたいのか」という問いが伴います。与えられたことをこなすだけでなく、自ら問題を発見し、解決方法を考え、行動に移す——それが主体性です。たとえば、学園祭で「与えられた役割をしっかりとこなす」ことは自主的ですが、「今年の学園祭をより良いものにするために、自分から新しい企画を提案する」ことは主体的と言えます。

「主体的に生きる」とは、「他人任せにしない生

き方」と言い換えることもできます。たとえば、「周りがそうしているから、自分もそうする」、「先生が言ったから、とりあえずやる」、「親が望んでいるから、その道に進む」というような考え方をしていると、知らないうちに自分の人生のハンドルを他人に預けてしまうことになります。もちろん、他人の意見を聞くことは大切です。しかし、主体的な人は、「自分はどうしたいのか」、「なぜそれを選ぶのか」を考え、たとえ周囲と違う選択をしても、自分の意思で決め、自分の責任で行動します。

それでは、主体性をどう育てていけばよいのでしょうか？以下に簡単に実践できる4つのヒントを挙げます。

- ①「なぜ？」を考える習慣を持つ
- ② 小さなことから「自分で決める」
- ③ 失敗を恐れずに挑戦する
- ④ 他者と対話し、視野を広げる

特に、技術者を目指す皆さんには、①と④が重要であると、私は思います。主体性とは「自分勝手に振る舞うこと」ではありません。むしろ、他人の考えを聞いた上で、自分なりの意見を持つという姿勢が大切です。友達や先生と議論をしたり、違う価値観に触れたりすることで、より深い主体性が育まれます。

皆さんの学校生活には、主体性を発揮できるチャンスがたくさんあります。例えば「授業で自分から発言する」、「自分で調べて、わからないことを先生に聞きに行く」、「部活動で新しい練習方法を提案する」などです。こうした一つひとつの行動が、皆さんの主体性を育ててくれます。そしてそれは、将来、社会に出たときに大きな力となります。

最後に、皆さんは、自分の人生をどう生きたいですか？それを考えることこそが、主体性の第一歩です。「自分の人生の主人公は、自分である」この言葉を、ぜひ心に留めておいてください。誰かの期待や評価に振り回されるのではなく、自分はどうしたいのか、どのような人になりたいのかを、自分の意思で道を選び、自分の足で歩いていく。その姿勢が、皆さんを本当に強く、豊かな人間へと育ててくれるはずです。

皆さんが、これからの学校生活や人生の中で、「主体的に動ける人」として成長していくことを、心から期待しています。

集団生活で重要なこと



寮務主事
桑原 伸弘

本校の寮は教育寮であり、多くの仲間との集団生活を通して人として社会人として大事なことを学び習得しながら成長していくための特別な場であり、貴重な経験をする場です。

寮生の皆さんであれば既に十分認識していることと思いますが、寮生活は家庭とは違い、何もかも快適な生活の提供を受けることはできません。しかし、成長を少しでも促すため、さらに、不自由ながらも少しでも楽しく快適に暮らすためには、ルールの遵守やモラルの重視、思いやりの気持ちと行動を欠かすことはできません。今回は、このルールを守ること、モラル、思いやりの行動について寮務主事としての考えをお伝えさせていただきます。

ルール違反をすれば、当然処罰があります。これは学校だけではなく社会でも同じです。また、「見つからなければいい」という考えが正しくないこともわかつて思います。しかし「処罰されるから違反行為をしてはいけない」や「何の得にもならないからくだらないことをするな」というような考えや教えは間違いではないですが、全面的に正しいとも言えないと感じています。大事なことは、人として間違った行為はしない、人として恥ずかしい行為はしない、周囲に迷惑を掛けることをしないということだと思います。人は時に間違いを起こします。しかしその後が大切です。処罰されて痛みを受けて学習するのではなく、自分の行為を省みて人としてどうあるべきかという考えから改心に繋げることが必要だと考えます。

次に、モラルについてです。モラルというのはそれに反する行為があっても処罰されることはほとんどありません。しかしモラルに欠ける行為は周囲に迷惑や不快感を与えます。例えば、共有の場で騒いだり、共有の場を散らかしたりゴミを捨てたりすることです。このような身勝手に迷惑な

行為が続く場合、周囲は多大なストレスを感じます。日本人特有の考え方や行動パターンとして、何か直してほしいことがあっても物事をはっきり言わず、空気を読んで気づいてほしいということがあります。これは無駄な衝突を避けようという気持ちがあるからです。皆さん、空気を読めますか？いろいろな場での自分の行動を客観的に見られるようになってほしいと思います。

次は思いやりについてです。思いやりというのも、欠ける行為があっても処罰されるわけでもなければ、迷惑を掛けていることでもありません。一方で思いやりのある行動をとることで周囲の人が快適になったり、感謝されたり、困った時の助けになります。例えば、散らかっているところを整理整頓や清掃をすること、困っている人や辛そうにしている人に声掛けをすることです。これらの思いやりの行動も、することによって得があるとか無いという話ではなく、何か見返りを期待するという気持ちでもなく、自然な行動として当たり前のようにできることが素晴らしいと考えます。

こういったルールを守ること、モラルを意識すること、思いやりの行動をとることは、人としてとても大事なことであり、人として成長するために必ず習得すべきことと考えます。

学寮での集団生活は、これらを経験したり、身に着けるための要素や発揮できる機会がたくさん詰まっている場です。

皆さん、ぜひとも寮生活を通じて人として強く正しく成長していきましょう。



学生会長あいさつ



開かれた自由な活動を目指して

電気情報工学科 3年
鳥飼 昌也

皆さん、こんにちは。和歌山工業高等専門学校学生会会長の鳥飼昌也です。日頃より学生会活動に温かいご支援とご理解を賜り、心より感謝申し上げます。新年度が始まり、新しい仲間を迎えた今、校内には新鮮な雰囲気と活気が満ちています。それぞれが期待と不安を胸に新たな一歩を踏み出し、日々努力を重ねている姿は、私たち学生会にとっても大きな刺激となっています。

今年度、私たち学生会が掲げている方針は「学生にもっと寄り添う学生会をつくること」です。これまで学生会は、学内行事の運営やルールづくりなど、学校の土台を支える役割を果たしてきました。それは非常に重要な仕事ですが、私たちはその役割に加えて、“学生一人ひとりと向き合い、つながること”を大切にしたいと考えています。何かをやりたいと思った時、困ったことがある時、あるいは誰かに話を聞いてほしい時——そんな時に「学生会に相談してみよう」と思ってもらえるような存在でありたいのです。

さらに、日常の活動をより多くの学生に伝えるため、SNSの活用も強化しています。学生会が何をしているのか、どういった思いで活動しているのかを知っていた

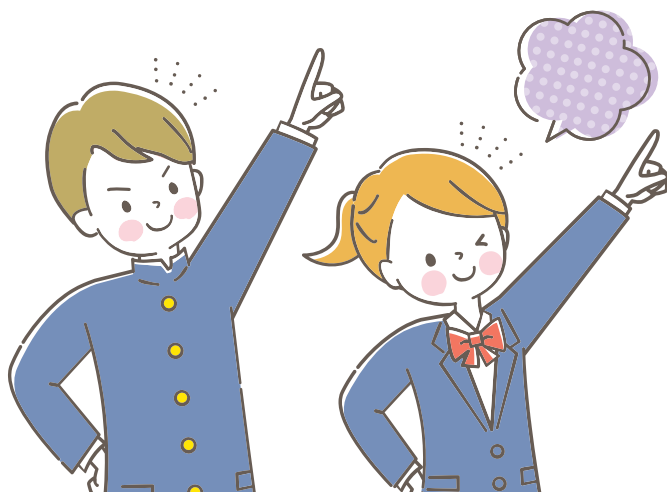
くことで、より身近に感じてもらえるよう努めてまいります。

そして、今年度後期には、私たちにとって最大の行事である「高専祭」が控えています。高専祭は、日頃の学びの成果を発表したり、自分の好きなものや楽しいと思うことをアピールする場であり、学年を越えて仲間と協力し合いながらつくり上げる、貴重な体験の場でもあります。今年は例年以上に、学生主体の自由な発想を取り入れた企画運営を目指しています。やってみたいこと、挑戦したいことがある人は、ぜひ学生会に相談してください。高専祭は“見るイベント”ではなく、“一緒につくるイベント”です。皆さん一人ひとりが主役です。

学生会は決して「特別な人たちの集まり」ではありません。私たち役員も、皆さんと同じように授業を受け、レポートに追われ、ときには悩みながら日々を過ごしている学生です。だからこそ、皆さんの声に共感し、同じ目線で物事を考えることができます。そして、その声を形にしていくのが私たち学生会の使命です。

学校生活は、楽しいことばかりではありません。うまくいかない日もあれば、孤独を感じる日もあるかもしれません。そんな時に「自分は一人じゃない」と思えるようなつながりや、支え合える場を、学生会はつくっていきたいと思っています。

これからも、皆さんとともに歩み、支え合い、楽しみながら成長していける学生会であり続けるために、私たちは真剣に、そして誠実に活動を続けてまいります。今後とも、学生会へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



新入生 — 本科



和歌山高専に入学して

知能機械工学科 1 年
針 生 直 弥

僕が和歌山高専に入学しようと思ったきっかけは、もともと機械やプログラミングが好きだったからです。中学校二年生の頃から高専という選択があることを知り、機械が好きだった僕は高専を受験しました。入学式では緊張しましたが、徐々に緊張もほぐれ、一日目から友達ができました。

寮での生活について、入学前は不安もありましたが、今ではその生活が当たり前になり、楽しく過ごせています。男子は一人部屋ということもあり、自分の時間をしっかりとれるので、いつでも人と接しなければならぬということもないです。休日は友達と一つの部屋に泊まったり、お風呂やごはんも一緒に行ったりすることが多いので、すぐに打ち解けることができます。

部活動は様々あります。僕は弓道部ですが、先輩達は優しく、楽しい場所です。帰宅部の子もいるので、強

制ではなく自主的な活動ができると思います。

授業でわからないことがあれば、いつでも友達に聞くことができます。また、先生へチャットで質問したり、授業後に気軽に聞くことができます。その分野の研究者の方なのでわかりやすく教えてくれます。専門分野の授業は一年生ではあまりありませんが、工作実習や機械製図は自分の好きな分野のため、新しいことを知ることができ、楽しく学んでいます。

高専生活は校則がほぼ無いため、髪を染めたり、整髪料を使うことができ、おしゃれをしたい人にもおすすめです。またクロックスを履いて登校など抜けているところがあっても怒られないので公立の高校に比べて過ごしやすいと思います。

自分は高専に合っているのかなと思う人でも、ある程度将来したいことが決まっていれば高専に来るのはありだと思います。

高専に来たい理由が釣り具を作りたいという人もいました。それくらい知能機械工学科は何かものを作りたいという思いがあれば入れます。好きなことを追いかける場所としては最高の環境だと入学して思いました！

もし、これを受験前に読んで興味を持ってくれた人がいればぜひ高専を受験してください！



和歌山高専に入学して

電気情報工学科 1 年
辻 本 航

僕が和歌山高専を知ったのは、中学3年生のときです。校則が緩く身だしなみもほとんど制限されず、アルバイトが禁止されていないのも良い点ですが、なんといっても5年間の一貫教育で専門的な知識と技術を習得できたり、就職や大学編入に有利だったり、国立のため学費が安いということを知り、ここに入学しようと思いました。

勉強面では、授業の時間が90分や赤点が60点と少し難易度が高めですが、とても優しい先生や個性ある先生方が教えてくれます。テスト期間にはいろいろな場所が自習室として開放され、効率よく勉強できる環境が整えられます。

クラスが一丸となって戦った初めての体育大会では、みんなが笑顔で取り組み、盛り上がりました。先輩方との戦いではにっちもさっちもいかず、結果勝ち点0点で最下位でしたが、来年こそは優勝したいと思います。

男子寮の部屋は一人部屋で、あまり周りの目を気にせ

ず過ごすことができます。男子の割合が多いことや、朝から晩まで友達の部屋にいることもあり、仲良くなるのがこの高校よりも早く、男子同士の関係が深まります。最初は点呼に身構えることもありますが、今では慣れてきました。寮食は2〜3択の中から自分で好きなものを選べるため良心的です。何といたってもお米とみそ汁が食べ放題なのがうれしいです。昼食ではカレーを選ぶことができますが、少し辛めの味付けです。お風呂は部活終わりの時は人が多くなり、じゃんけんでシャワーの争奪戦が始まります。朝風呂はできませんが、夜は時間内だと何回でも入れるので運動してからもう一度入ることができます。

僕はハンドボール部に所属しています。練習は週に2回で、しんどいこともありますが、専攻科の方や先輩方と楽しく取り組んでいます。

和高専は海が近いので、空いた時間や休日に海辺で遊べます。

僕たちはもうすぐ夏休みに入ります。和高専は夏休みの宿題が少ないにもかかわらず、ほぼ2か月あるのがうれしいです。

これから辛いことや大変なこともあると思いますが、自分の夢に向かって頑張っていきたいです。

新入生 — 本科



和歌山高専に入学して

生物応用化学科 1 年

柳 室 姫 那

私は中学3年生の冬に和歌山高専に行きたい、挑戦してみたいと思いました。高専に入学してからの毎日は、正直言って楽ではなく、大変なことも多いですが、それ以上にすごく充実しています。

授業は内容が難しく、ついていくのに必死になることもあります。勉強する意味や学ぶことの面白さを感じられるようになってきました。

寮生活では、最初の頃、慣れない環境のため不安でホームシックになってしまい、家族のことを思い出して少しつらかった日もあります。でも、同じように頑張っている仲間と支え合い、先輩方が優しく接してくれるおかげで、少しずつ慣れていきました。今では「ここに来てよかった」と心から思っています。

高専ならではの実験や実習は、自分の手を動かして学べるのが楽しく、「勉強ってこういうことなんだ」

と感じる瞬間が沢山あります。校則も自由なところが多く、自分の判断で行動することが求められる環境は自主性や責任感が自然と育ってきている気がします。こういう毎日の積み重ねが、自分の成長にちゃんとつながっているのだと実感しています。

もしこの学校に来ていなかったら、今みたいに成長し、前向きに頑張る自分にはなれていなかったと断言できます。だから、あのとき勇気を出して高専を選んだ自分に「ナイス!」と言いたいです。

もちろん、これからもっと難しいことや大変でどうしようもないと悩むことも沢山出てくると思いますが、私はこの場所で、もっと成長したいです。そして、やるべきことから逃げずに、自分の目標に向かって一歩ずつでもいいから止まらず進んでいきたいです。また、もっと頼れる自分になるために、この環境で全力で挑戦していきたいです。そして困ったとき、悩んでいるときに手を差し伸べてくれる優しい先輩たちのように、私も誰かの力になり、頼られるような存在になりたいです。



和歌山高専に入学して

環境都市工学科 1 年

古 川 陽 登

○入学前

私は和歌山高専の入試を受けると言った際、友達から大阪の高校を選ばないのかと問われたことがあります。確かに、大阪の高校を選ぶと今まで通り友達と遊べたのかもしれないと感じました。実際、和歌山高専の存在を知るまで私は友達と同じところを選ぶつもりでした。しかし、中学校の担任の先生の「自分の将来を第一に考える」という言葉が心に響き、この和歌山高専を志望しました。だから、私は友達からの問いに「将来への階段をすこしでも早く上るため」と答えました。

私は学校長推薦入試で合格したため、周りよりかなり早く受験が終わり、周りに勉強を教えることができました。その時、自分が理解していないことを見つけてことができ、復習することができました。そして今、高専の勉強に役立っており、よかったと感じています。

○勉強について

中学生のときに高専の勉強はとても難しいと言われて続けていて、とても不安に感じていました。しかし、実際に授業を受けてみると思っていたより難しくはなく、中学で勉強したことが土台としてあるのだと感じていて、私はその土台の上に新しい知識を付け加えていくイメージで取り組んでいます。分からないことは、寮で友達に聞けるのでとても困っているということはありません。しかし、実力が足りていないと感じる節が多少あり、後期からはもっと頑張らなければと考えています。

○寮での生活について

最初は他人行儀な会話だったのが、一か月が経つ頃にはラフな会話が基本的になっていました。コンビニに行くのに時間がかかったり、雨の日のwi-fiの遅さだったりとは不満に感じていますが、のんびり過ごしています。つい先日もみんなで鍋を囲み食べました。そんなことができるくらいには自由気ままに過ごしています。

新入生 — 専攻科



プラス2年の高専生活

メカトロニクス工学専攻 1年
北口 康介

専攻科に入学して約3か月が経ちました。入学当初は、5年間ともに過ごしたクラスメイトが卒業してしまったこともあり不安を感じていましたが、今では新しい友達もでき楽しい毎日を過ごせています。専攻科での生活は、想像していた以上に新鮮で刺激的です。今回はそんな専攻科で感じたことについて紹介します。

はじめに、専攻科に入った第一印象はとにかく忙しいということです。専攻科ではほとんどの科目が学修単位となり、毎週各科目で課題が出ます。本科生時代に課題をギリギリにする癖がついていた自分にとっては、最初はかなり大変でした。今では改心し、早め早めに課題に取り組むようにしています(笑)。また専攻科では本科生時代の専門とは違う専門科目の授業を受けることができ、大きな魅力だと感じています。例えば自分は機械科出身ですが、メカトロニクス工学専攻では機械と電気の専門科目を学ぶことができ、より幅広い専門の基礎を身につけることができます。

次に新しい出会いについてです。冒頭にも書いたとおり、友達が卒業してしまいこれからの専攻科生活に不安を感じていた自分ですが、全くの杞憂でした。専攻科には「創造デザイン」という科目があり、出身学科の違う学生でグループを作り半年間活動します。この活動を通して、本科生時代はあまり関わりがなかった他学科の学生と意見を出し合い協力することで、交友関係が広がったと感じます。また、放課後には不定期で「専攻科バレー」が開催され、先輩や同級生との交流を深める場となっています。最初は緊張しましたが、こうした活動を通じて自然と打ち解けることができ、新しい人間関係を築けたことを嬉しく思っています。専攻科は本科と環境が全く変わらないと思われがちですが、新しい出会いもありとても新鮮な毎日を過ごしています。

次に研究活動についてです。本科での卒業研

究は1年間ですが、専攻科では2年間の特別研究を行います。そのため、より深く、そして自主的に研究に取り組むことが求められます。専攻科になると研究室にいる時間が増え、空きコマにも研究を行ったりしています。今は研究を進めることに必死ですが、これから研究をすることの楽しさや達成感も実感できたら嬉しいです。

専攻科で過ごすこの2年間は、これまでの5年間とはまた一味違う、充実した時間になると感じています。プラス2年の高専生活をより充実させるため、研究も勉強も遊びも全力で取り組み、何事にも挑戦する気持ちを忘れないようにしたいと思います。また、資格取得や学会での発表などにも積極的に挑戦し、自分の力を試す機会を増やしたいと考えています。専攻科で得た学びや仲間との出会いを糧に、技術者としてだけでなく、人としても成長できる2年間にしたいです。



新入生 — 専攻科

高専6年目にして驚いたこと

エコシステム工学専攻1年 寺井 梨華

今年の3月に卒業した母校に専攻科生として再び通い始め、早4か月が経ちました。入学式では、中学校の制服に身を包み、きっと今ごろ新しい生活に期待と不安を胸に抱いてここにいるであろう本科の1年生を見て、本科の時に入学式がコロナの影響で無かった私たちも、入学式があったら、あんな感じだったのかなと想いを馳せる式でした。

はじめは、別々の道へ進んだクラスメイトがいない学校生活に寂しさがありましたが、想像以上に次から次へと多く降りかかる課題の量や研究、課外活動のおかげで寂しいと感じる暇もなくあっという間に夏休みに入ってしまった。

そんな4か月の中で、いくつか驚いたことを今日はこっそりお話させていただきますね。

まず、1つ目。基本的に専攻科棟へ入るには、学生証をかざす必要があるということ。今年は専攻科棟の教室を初めて学生証をかざして扉を開けたとき「文明の利器ってすごい!」と感動した覚えがあります。いまだに学生証をかざすたびに心の中で感動するのは誰にも内緒のお話です。学生証がただのプラスチックのカードではなく、カードキーにもなるなんて思うと同時に、5年間も高専にいたのに、まだ知らないこともあるのかと驚きました。正直なところ、面倒くさがるの私には、ちょっと外に出たいだけの時に、わざわざ学生証を持って外に出なければ締め出されてしまうのは、嬉しいだけじゃないシステムなんですけどね(笑)。きっと何かのセキュリティがかかっているのだと思うのですが、専攻科棟だけカードキーが必要な理由を修了時までには解き明かすのが今後の目標です。

続いて、2つ目。授業の開始時が本科とは大きく違うこと。本科の授業は挨拶に始まり挨拶に終わります。しかし、専攻科では先生が来られて気が付いたら授業が始まっています。ちょっとした大学生気分ですね。他にも本科生は毎授業の初めに出席を取り、遅刻す

れば1欠課、欠席で2欠課が付きますが、専攻科にはそもそも欠課という概念がありません。先生によっては出席を取る先生もいらっしゃいますが、基本的には出席を取ることが無いため、体調を崩した時に無理せず休みやすい環境なのかもしれないと感じました。ただ、5年間無遅刻無欠席を貫き皆勤賞をいただいた身としては、どうせならあと2年無遅刻無欠席を目指そうと思っているので、欠課という概念が無いことから必然的に皆勤という概念も無いのは少しだけ寂しくも思います。そんな中ですが、もし7年一度も休むことなく通うことができればきっと少しは自分自身に自慢できると思うので、引き続き頑張ろうと考えています。

そして、3つ目。やるべきことが多すぎる。一応、先輩方から課題が多いとは聞いていたのですが、想像以上でした。ほとんどの授業で毎回課題が出され、終わらせても終わらせてもまた次の課題が出されます。また、やらなければならないのは課題だけでなく、研究や課外活動も進めなければなりません。特に6、7月は課題やテスト、発表が重なり怒涛の毎日で、乗り越えられたのはほぼ奇跡といって良いでしょう。私にとって、最後の学生生活となる専攻科では、自分のやりたいこと全部しようという思いから様々なことに挑戦しているのですが、何も考えずに飛びつく自分の首を絞めるんだと学んだ良い4か月でした(笑)。

最後に、もうひとつだけ。それは、テストが終わった後テスト返し無しで夏休みに入ること!これは、専攻科に入学して変わったことで個人的に驚いたランキング堂々の第1位です。今年度の前期期末試験は、津波警報の影響で予定より1日遅れてテストが終わりでしたが、7月中に夏休みに入る予定だったのでこんなに早い夏休みは中学以来の出来事で少し混乱しているのも事実です。特に、ここ1ヶ月半少しばかり忙しかったこともあり、余計に拍子抜けというかなんというか。

この記事を書いている現在は、一足先に夏休みに入っている。授業を気にせず気楽に研究や課外活動、インターンシップの準備を行っています。この平穏な日々がずっと続いて欲しいものですが、後期以降は就職活動などで忙しくなり残りの1年半なんてあっという間だと思うので、今のうちに夏をそして暇を謳歌したいと思っています。みなさんも残りの学生生活を悔いのないよう精一杯楽しんでください。

新外国人留学生



自己紹介

知能機械工学科
3年
ホン

こんにちは、カンボジアから来たホンです。今年の四月から、和歌山高専の知能機械工学科で勉強しています。

カンボジアは東南アジアにあります。ラオス、ベトナム、タイと国境を接し、南西方面はタイランド湾があります。国の面積は日本の三分の一ぐらいです。使っている言語はクメール語です。カンボジア人は97%が仏教を信仰しています。日本と違い、カンボジアは熱帯にあるので二つの季節しかありません。それは乾季と雨季です。国民の多くが農業に従事しています。主に、米、キャッサバ、トウモロコシなどを育てています。有名な観光地はシエムリアップ州です。日本の京都府みたいに、古いお城がたくさんあります。アンコール・ワットというお寺が一番人気の観光地です。



私は国の首都、プノンペンに住んでいました。高校生のとき、機械専門を勉強したいため、日本に留学することを決めました。日本に来る前、母国で一年半ぐらい日本語を勉強しました。特にアニメで日本の文化と社会がある程度わかりました。去年、日本に初めて来て、東京日本語教育センターで日本語を一年間勉強していました。日本に来たばかりの頃は春だったため、先輩と一緒に花見に行きました。涼しい天気と咲いている桜が、私の日本での生活の始まりにぴったりでした。夏は伊勢神宮に行きました。日本の夏は私の国と同じように暑いです。秋は友達と紅葉を見に行きました。赤と黄色の葉が素敵な景色を作っていました。冬は東京近郊では雪が降らないと思い、箱根に行きましたが、雪がいっぱい降り、真っ白になりました。

今は、日本の生活にだんだん慣れてきました。まだまだ勉強することがいっぱいあります。これからも、どうぞよろしくお願いいたします。



新外国人留学生

自己紹介

生物応用化学科
3年
フォー

はじめまして。僕の名前はフォーです。生物応用化学科に編入学した留学生です。出身はタイで、今回が初めての海外生活になります。すべてが新鮮で、毎日が発見の連続です。



最初は、日本での生活や授業に少し緊張していましたが、先生や先輩、クラスの皆さんがとても親切に接してくださり、少しずつ慣れてきました。日本語はまだ完璧ではありませんが、毎日少しずつ練習しながら、生活にも勉強にも前向きに取り組んでいます。



日本の学校生活は、タイとは違うところが多く、特に言葉の壁にはじめは苦労しました。でも、授業の内容はとても興味深く、部活動にも楽しく参加しています。先生の説明もわかりやすく、友達のサポートにもあり、助けられています。

これからもっと日本語を上達させて、たくさんの友達と交流し、日本の文化や習慣についても学んでいきたいです。まだまだ学ぶことは多いですが、毎日を大切にしながら一步步成長していきたいです。

これからもどうぞよろしく願いいたします。ここまで読んでくださって、ありがとうございました。



新外国人留学生



自己紹介

環境都市工学科
3年
トニ

こんにちは！環境都市工学科3年のトニです。マダガスカル首都、アンタナナリボから来ました。マダガスカルは、アフリカの横にある大きな島で、自然豊かな国です。バオバブの木や珍しい動物もたくさんいます。



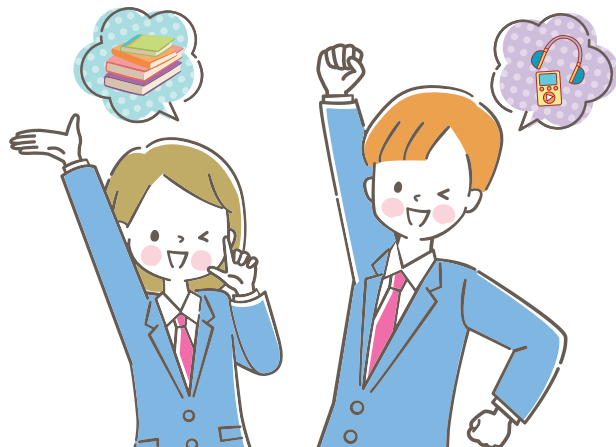
日本に来てから、もう1年半くらい経ちました。最初に卵かけご飯を食べたときは、生卵ってこんなに美味しいんだ！ってびっくりしました。母の作ってくれる卵料理にちょっと似ていて、なんだか懐かしい気持ちになりました。ラーメンも大好きで、休みの日には友達とご当地ラーメンを食べに行ったりしてます。



中学生のころからアニメや漫画が好きで、日本にずっと憧れていました。去年は東京の日本語学校に通って、少しずつ日本の生活にも慣れてきました。最初は「友達できるかな…」「関西弁わかるかな…」と不安もありましたが、和歌山高専に入ってから、そんな心配はすぐなくなりました。みんなほんとに優しく、話しかけてくれたり、困ったときはすぐ助けてくれて、僕の変な発音でもちゃんと聞いてくれます。一緒にご飯を食べたり、いろんな話をしたりして、毎日がすごく楽しいです。留学って大変なこともありますが、周りのサポートのおかげで、思ってた以上に充実した時間を過ごせてます。

今は、環境や都市づくりについて勉強していて、将来はマダガスカルで太陽光発電や雨水の再利用システムを広めたいと思っています。日本で学んだことを活かして、地元の人たちと一緒に、自然と共に暮らせる町づくりができればいいなと考えています。

これからもっといろんな人と仲良くなり、日本の文化や習慣も深く知っていきたいです。気軽に話しかけてくれたら嬉しいです！よろしくお願いします！



柑紀寮より

寮務主事補

横田 恭平

平素より柑紀寮へのご理解・ご協力をいただきありがとうございますこと、心より御礼申し上げます。今年度もどうぞよろしくお願いいたします。令和7年4月より本科1年生(男子116名、女子37名)、留学生3名を迎え、寮生数は、男子学生354名、女子学生111名です(令和7年4月6日現在)。また今年度より桑原伸弘先生が寮務主事を担当することとなりました。

それでは令和7年4月以降に行われました主な行事について、報告させていただきます。

入寮式

4月6日(日)に入寮式を行いました。



寮務主事より柑紀寮に関わる職員の紹介や規則の説明が行われたのち、指導寮生の案内で非常持ち出し袋の受け取りと避難経路の確認が行われました。夕方には寮食堂で入寮生にとって初めてとなる寮食となり、歓迎食が振舞われ、指導寮生や寮に携わる教職員と食事を楽しみました。

指導寮生任命式

4月11日(金)に2025年度前期指導寮生任命式を実施しました。任命式では、井上校長先生より、高学年寮生から選ばれた指導寮生・副指導寮生へ任命書が手渡され、「柑紀寮は他高専の寮よりも規模が大きいので指導寮生の協力なしでは運営が難しいので、皆さんの自主的、自発的な運営を期待しています。」と激励の言葉をいただきました。寮務主事から、指導寮生の役割について再確認があり、「寮

の運営には指導寮生の協力が不可欠で、皆さんの努力に大いに期待しています」とお話がありました。



ウェルカミングパーティー 2025

4月19日(土)に、新入生歓迎イベント「ウェルカミングパーティー 2025」を開催しました。これは新入生との親睦を深める目的で例年4月中旬に行っています。指導寮生委員会が中心となってバレーボール大会とその後の昼食会を企画しました。



バレーボール大会では、指導寮生をチームリーダーとした"1年生と指導寮生の混合チーム"が予選リーグと決勝トーナメントを戦い、最強チームの座を争いました。

地震と津波を想定した避難訓練

4月17日(木)に今年度1回目の避難訓練を実施しました。この避難訓練は、地震発生・津波警報発令時の身の安全の確保、寮生の避難場所までの経路、避難場所での点呼の確認を目的とし、寮内放送による避難命令後、全寮生は指導寮生・副指導寮生に誘導されながら避難場所に指定された場所に避難する訓練を実施しました。

お 知 ら せ

令和7年度学科主任

学 科	学科主任
知能機械工学科	山 東 篤
電気情報工学科	直 井 弘 之
生物応用化学科	森 田 誠 一
環境都市工学科	三 岩 敬 孝
総合教育科	赤 崎 雄 一

令和7年度クラス担任

学年	学 科	担任教員
1 学年	知能機械工学科	青 山 歓 生
	電気情報工学科	青 井 顕 宏
	生物応用化学科	津 野 祐 司
	環境都市工学科	芥 河 晋
2 学年	知能機械工学科	秋 山 聡
	電気情報工学科	志 村 幸 紀
	生物応用化学科	椛 島 雅 弘
	環境都市工学科	林 祥 史
3 学年	知能機械工学科	大 村 高 弘 (副：檉 原 恵 藏)
	電気情報工学科	岩 崎 宣 生
	生物応用化学科	矢 野 大 地
	環境都市工学科	山 田 宰
4 学年	知能機械工学科	李 政 勳
	電気情報工学科	岡 本 和 也
	生物応用化学科	楠 部 真 崇
	環境都市工学科	櫻 井 祥 之
5 学年	知能機械工学科	村 山 暢
	電気情報工学科	中 嶋 崇 喜
	生物応用化学科	西 本 真 琴
	環境都市工学科	竹 村 泰 幸

令和7年度 学生相談員（ハラスメント相談員）

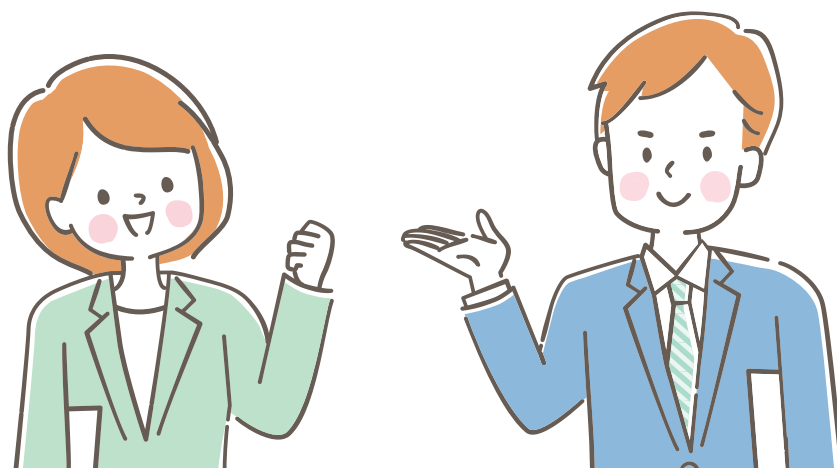
心の中を見つめても、自分が見えてこなかったり、将来を見わたそうとしても、未来が見えなかったり…青春時代は、人生で最も純粋に人間や社会について悩む時代ですが、フーッと一息ついて、誰かに話してみることもあっていいんじゃないでしょうか。

なお、保護者の方々もご利用いただけます。

濱 田 俊 彦	総合教育科教員（室長）
山 吹 巧 一	電気情報工学科教員（副室長）
樫 原 恵 藏	知能機械工学科教員
河 地 貴 利	生物応用化学科教員
櫻 井 祥 之	環境都市工学科教員
和 田 茂 俊	総合教育科教員
西 田 佳 代	学生課寮務係長
小 川 敏 子	学生課学生係（看護師）
五 明 優 介	カウンセラー（公認心理師・臨床心理士）
赤 松 正 敏	カウンセラー（ソーシャルスキルトレーナー）
坂 本 優 美	カウンセラー（公認心理師）

☆予約・相談・連絡先

<https://www.wakayama-nct.ac.jp/campuslife/support/council/>



令和7年度行事計画 (9月から3月)

9月 SEPTEMBER

28(日) 開寮

10月 OCTOBER

11(土) 学校説明会

11月 NOVEMBER

8(土)～9(日) 高専祭

12月 DECEMBER

1(月)～3(水) 中間試験

4(木)～5(金) CBT (Computer Based Testing)

26(金) 閉寮

1月 JANUARY

6(火) 学校長推薦入試 (登校禁止)

12(月) 開寮

17(土) 体験実習入試 (登校禁止)

24(土)～25(日) 英語プレコン全国大会

27(火) 学生総会・寮生総会

2月 FEBRUARY

4(水)～12(木) 学年末試験

8(日) 学力検査入試
帰国生徒特別選抜入試
(登校禁止)

15(日) 学力検査入試 追試験
(登校禁止)

20(金) 終業式・閉寮

20(金)～25(水) 学年末試験 追試・再試日

3月 MARCH

5(木) 成績・卒業判定会

14(土) 卒業式・修了式



編集：和歌山工業高等専門学校広報委員会

発行：和歌山工業高等専門学校

和歌山県御坊市名田町野島 77 番地

電話 0738-29-8244 (学生課学生係)

